

市長としゃべろうECOまちトーク in HIGASHINADA  
2010年3月28日(日)13:30～ (於 甲南大学)

# 地球環境問題とわたし達ができること ～ゼミナール活動を通して～

甲南大学文学部人間科学科谷口ゼミナール

4回生 山下 尚子

3回生 中村 尚樹

# 活動の記録

- ◆ 今から約15年前に夏野菜・米作りを開始
- ◆ 中国、タイ、マレーシアの大学と環境をめぐる学生会議
- ◆ 2001年
  - ・環境啓発シンポジウムが開催
  - ・阪神淡路産業復興推進機構主催の「ベンチャー学祭」で提案した「循環型のビオトープ」が甲南大学のキャンパス内に実現
- ◆ 2003年
  - 神戸市の学校・神戸市主催の「震災の教訓を踏まえて、これからの神戸の魅力づくりにおけるの提言」で「『自給自足生活の体験学習塾』の設置の提言」を公表し優秀賞受賞
- ◆ あいな里山公園(国交省)での里山復興ボランティア活動
- ◆ 2001～2007年
  - スチューデント・アクション・プロジェクトの一環として環境啓発シンポジウムが開催され学内で優秀賞を7年連続受賞

# 海外の大学と環境をめぐる学生会議

- ◆ 1998年3月  
○ 北京大学と学生会議(於 甲南大学)  
「日中の環境問題と環境教育の展開」
- ◆ 1998年8月  
2000年8月  
プラナコン大学と学生会議(於 タイ)  
「地球環境問題と世界市民の活動」
- ◆ 2004年8月  
プラナコン大学と学生会議(於 甲南大学)  
「環境教育のアジアネットワークの構築」
- ◆ 2006年8月  
プラナコン大学と学生会議(於 タイ)  
「環境再生の活動」
- ◆ 2010年3月  
マラヤ大学と学生会議(於 マレーシア)  
「ユネスコクラブと若者たちの活動」



マラヤ大学と学生会議(2010年3月マレーシア)



甲南大学生による発表(2010年3月マレーシア)

# 環境啓発シンポジウムの開催

循環型キャンパスを目指して、谷口ゼミナールでは毎年1回生の授業の中で、学生部、管財課、生協、清掃業者、守衛室、対馬造園などの協力のもと、環境啓発シンポジウムを行っています。

<内容>

キャンパス内の組織との連携

<効果・成果>

- ・ゴミの分別を開始
- ・学内にビオトープを作成
- ・デポジット式のお弁当箱、自動販売機を採用

2001年から現在まで、年1回9年間実施して、キャンパスにおいて環境意識の向上に努めている。



学生の提案が採用されたデポジット式のお弁当箱



ゴミの分別(燃えるゴミ、缶、ペットボトルの3種類)

# 自給自足の体験

甲南大学環境教育野外施設(広野グランド・神戸市西区)



火おこし体験



竹で作ったお皿とお箸、自分たちで育てた野菜



藁と竹で作った小屋



中にゴザを敷いて、ここで1週間寝泊りする

# フィールドワーク(農作業)による夏野菜作りの体験



「環境教育の実践(広域科目)」での苗付け(4月)



夏の収穫祭(7月):木に実ったトマト「おいしい!!」



収穫した野菜(7月):旬の味



夏の収穫祭(7月):塩と味噌だけで食す(食育)

# フィールドワーク(農作業)による米作りの体験



甲南小学校の生徒たちに田植えの指導を行う(6月)



甲南女子中高の生徒たちによる稲刈り(10月)



足踏み脱穀機による脱穀の指導(10月)



秋の収穫祭(12月): 甲南幼稚園・小学校・男子中高・女子中高のみんなで収穫の喜びを味わう

# あいな里山公園(国交省)での里山復興ボランティア活動 神戸市北区山田町藍那



彼岸花



指導員による生態系の説明



柿の渋み、甘みを五感を通じて味わう



あいな里山公園の広大な土地を実感する



# 地球環境問題とわたし達ができること

- ◆ 環境教育を通して環境意識を高める
- ◆ 環境教育の授業や学校教育をサポート
- ◆ 海外ネットワークによって環境を考えると共に、学校や地域など身近なところで活動するThink globally, act locally
- ◆ フィールドの指導を通しての世代間交流と地域連携
- ◆ いのちを育てる体験から、いのちの大切さを実感する
- ◆ 体験学習から環境問題に取り組む  
生態系(自然)を学び、生態系の破壊を知る。その上で環境活動をする。
- ◆ 行政、地域、学校などとのパートナーシップによる地域連携の推進

ありがとうございました。

